

講座番号	426	体 系 区 分	専 門 研 修	主 催	京都府総合教育センター
令和3年度 最先端科学から学ぶ講座 実施要項					
講座のねらい	先進的な研究施設において、第一線の研究者からの講義等を通して、最先端技術と実生活との関連や探究の方法等をどのように授業に生かすかを考える。				
京都府教員等の 資質能力の 向上に関する 指標との対応	ステージ3 充実期（16年～24年） 観点：学習指導 ・各教科等の指導において、主体的・対話的で深い学びの充実に向けて、ICT活用も含め、授業改善や教材研究に取り組み、他の教職員に助言・支援できる。 ステージ3 充実期（16年～24年） 観点：京都ならではの教育 ・京都府教育振興プランの実現に向け、社会情勢や世の中の出来事について日々情報収集し、多様な体験や交流を通じて自らの視野や教養を広げ、豊かな教育活動が展開できる。				
受 講 対 象	教諭（小学校、義務教育学校前期課程、特別支援学校小学部）、理科担当教諭（中学校、義務教育学校後期課程、高等学校及び特別支援学校中学部・高等部）、技術・家庭科（技術分野）担当教諭（中学校、義務教育学校後期課程、特別支援学校中学部）、情報科担当教諭（高等学校、特別支援学校高等部）、理科担当実習教諭及び実習助手30名				
定 員					
日 時	令和3年 6月24日（木） 10：30～17：00				
会 場	京都大学 総合研究7号館（京都市左京区吉田本町）				
10:30 12:00 13:00 14:30 14:45 16:15 17:00	講義題等		内 容		
	講 義 I	人工知能－これまでの研究とこれからの教育－	・人工知能についての研究のこれまでと今後の展望、これからの教育とAIとの関わりについて考える。		
	京都大学大学院情報学研究科		教 授	山 本 章 博	
	講 義 II ・ 実 習 I	音声対話システム	・音声を認識・理解するロボットの研究について講義や実習を通して学び、最先端技術と実生活との関連や探究の方法等をどのように授業に生かすかを考える。		
	京都大学大学院情報学研究科 京都大学大学院情報学研究科		教 授 助 教	河 原 達 也 井 上 昂 治	
	講 義 III ・ 実 習 II	深層学習とその視覚情報処理への適用	・コンピュータの視覚の実現を目指した研究について講義や実習を通して学び、最先端技術と実生活との関連や探究の方法等をどのように授業に生かすかを考える。		
	京都大学大学院情報学研究科 京都大学大学院情報学研究科		教 授 准 教 授	西 野 恒 延 原 章 平	
	ま と め	振り返り	・研究者からの講義等を通して、最先端技術と実生活との関連や探究の方法等をどのように授業に生かすかを考える。		
	京都府総合教育センター 京都府総合教育センター		主任研究主事兼指導主事 研究主事兼指導主事	由 良 正 樹 草 木 康 伸	
	そ の 他	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、会場は座席の間隔をとり、換気を行います。マスクの着用、手指の消毒又は石鹸での手洗い等を各自行ってください。 ・注意点……会場までの交通手段・地図については、以下のURLを御覧ください。 https://web.kyodaimap.net/building/54/ ・担当部……地域教育支援部 TEL：0773-43-2934			